

新宮山彦ぐるーぷ第1831回

持経宿・薪小屋外壁張りとは薪棚設置及び薪移管

◇実施日：平成27年08月01日(土)～02日(日)

◇参加者：川島 功、青木宏充。2日日帰り・沖崎吉信、橋本 梓、
畑林秀味、梶野照雄。

計6名

08月01日(土) 晴後薄曇

本日の参加は川島だけのため、コンビニで夕食・朝食・飲料水・
氷を調達し、持経宿に8時半前に到着。

本行事は、先日設置した立掛け薪小屋の両サイドに入口・外壁
波トタンを張るための、下地作り(間柱を立て胴縁打付け)と薪棚
設置作業である。

持経宿改築に伴いお堂横に仮薪置場を設置したが、「世界遺産・
参詣道」沿いにあり、薪小屋を設置して出来るだけ早く撤去し、
改築前の状況に戻す必要がある。

持経宿桁を支える柱に添って筋交い材を打付けて薪小屋の宿側
柱とする。

宿の基礎横にコンクリートブロック(6cm)上に、廃材垂木を1
800cmに切り、コーススレッドビス(750か900mm)をインパク
トドライバーを使って止め薪棚下段とする。その上75cm、15
0cmの位置にも垂木を打止め3段薪棚とする。

一人なので片側を適当な支え材の上に乗せ、片側を止めレベル
で水平を確認して止めてゆくのて手間がかかる。

薪小屋の有効幅は140cm。便槽基礎の関係から玄関幅を71
cm・高さ178cmとして、下段と178cmの位置に両端柱に胴縁
を仮止めして、宿外壁トタンから35cm、71cmの位置に間柱を
立て、上端を垂木に止め終えた時点で昼食とする。

休憩していると、12時15頃に青木氏が、深仙宿から8月中

旬に奥駆道全縦走の下見とデポを兼ねて到着。

台風11号の倒木を一部処理して下さり、春先に倒伏・傾いた
石柱道標を立て直した石柱は、現在はしっかり立っていること
と。霜柱等の冬季を経ないと現状復帰の評価は出来ないだろうが
期待が持てそうだ。

午後から。青木氏が材の片方を支えてレベルを確認して頂いた
ので能率が上がり3段棚の骨組みが15時前に完了する。

気温は27℃前後だが、風が無いのでたっぷり汗をかく。夕立
が来そうな薄暗い空となり16時過ぎに作業を終了する。



薪小屋両サイドの間柱と薪棚、 夕食懇談中

青木さんは先週、上葛川→笠捨山→行仙宿→21世紀の森分岐
間の点検巡視をして下さり、お堂横の石垣崩壊に続き、台風11
号により笠捨山からの下りと、行仙宿・行者堂横の杉木立が斜め
に倒れる被害が目立つとのこと。持経宿改築で行仙宿への巡回が
滞っている時だけに情報はありがたい。皆さんも改築作業行事日
が合わなくとも、南奥駆道を時には歩いて頂きたいと思えます。
ビールと飲みかけのお酒・太平洋で疲れもあり、酒の回りも早
く20頃に就寝。

行動タイム

鶺鴒殿 6:30→8:20 持経宿→11:50 昼食(12:50)→間柱と薪棚設置
16:20→17:20 夕食→20:00 就寝。

8月02日(日) 晴時々曇

5時半過ぎに起きて、薪小屋内に落とした釘・ビスを拾ってサ
イズ別に揃えて作業に備える。

朝食後、青木・川島で胴縁を打ち終えた9時前に新宮組3人(沖
崎・畑林秀、橋本)と少し遅れて梶野氏が到着し冷たいハウスミカ
ンなど頂く。

沖崎・橋本さんは、千年檜祠と不動堂のお供えをお盆菓子に取
替え。梶野氏は、お堂の鼻隠し・破風板と薪小屋間柱などの防
腐剤塗装。

廃外壁波トタンの傷みの少ない物を選び、必要サイズに鉄工用
の円鋸刃で川島が切断し、青木・畑林氏が笠釘で薪小屋外壁波
トタンを胴縁に打ち止める。途中、沖崎氏も加勢。

その後、沖崎、橋本氏は、お堂の余分なコンパネを薪棚板にな
るように切断・細工された。

昼食後、完成した薪棚へ沖崎・橋本・青木氏が、仮薪置場から
設置した薪棚へ運搬。



薪運搬し薪棚に積み込み



外壁波トタン張り

川島・畑林・梶野氏は、屋根の勾配垂木に合う様に、現物あわ
せで波トタンを切り張る。

新薪小屋が略満杯になるが、仮薪置場の薪は多くて、まだかな
りの量が残るが、お陰で玄関前の廃材は無くなりスッキリした。

雨水槽の目隠しは、梶野氏が相シヤクリ野地板で化粧直し。
梶野・青木両氏は、旭口登山口の青木車回送のため15時頃に
下山。

新宮組は休憩後、廃材の整理と畑林氏屋根・トユ上の枯れ枝等
を箒で掃き落し後、戸締りして下山。
三叉路の廃材置場は、現状の一段下に再設置して小屋周りの残
材を移す作業が未だ残っている。



薪小屋完成



薪棚は略万杯



本日の作業者

行動タイム

起床 5:30→6:15 朝食→作業→9:10 休憩 9:30→11:30 昼食
12:30→作業終了 14:40→(青木・梶野氏 15時頃下山)→持経宿
15:30→17:20 新宮

(記 川島)